

災害の概況と推移

火災 - Fire -



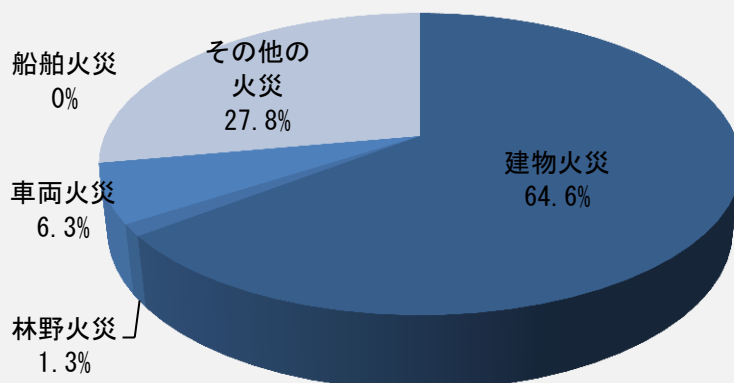
1 火災発生内訳（平成 29 年中）

平成 29 年中に広島市消防局管内で発生した火災は 316 件で、これにより 8 人の死者と 60 人の負傷が発生した。また、損害額は合計で 4 億 7,418 万円、建物の焼損面積は 4,082 m²であった。

火災種別で見ると、「建物火災」が 204 件で約 6 割を占めており、その損害額は損害額全体の約 99 となっている。

区分	年別	平成 29 年	平成 28 年	増減
火災件数（件）		316	299	17
建物火災		204 (64.6%)	187 (62.5%)	17
林野火災		4 (1.3%)	5 (1.7%)	△1
車両火災		20 (6.3%)	33 (11.0%)	△13
船舶火災		0 (0.0%)	1 (0.3%)	△1
その他の火災		88 (27.8%)	73 (24.4%)	15
損害額（千円）		474,180	490,488	△16,308
建物焼損面積（m ² ）		4,082	3,358	724
林野焼損面積（a）		14	45	△31
死者（人）		8	5	3
負傷者（人）		60	54	6

【火災発生原因の内訳】



2 過去 10 年間の火災件数等の推移

出火原因の推移を見ると、「放火・放火の疑い」による火災は、昭和 61 年から平成 25 年まで 29 年連続で出火原因の第 1 位となっていたが、平成 26 年は出火原因の第 2 位となった。しかし、平成 27 年から「放火・放火の疑い」による火災が再び出火原因の第 1 位となっている。

年別	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
火災件数	548	506	514	479	395	420	378	305	299	316
損害額 (10 万円)	10,158	8,140	6,003	5,163	4,940	7,898	6,359	4,488	4,905	4,742
建物焼損 面積 (㎡)	5,654	8,326	5,545	5,804	3,953	7,311	5,700	5,188	3,358	4,082
死者 (人)	16	13	12	11	12	9	30	20	5	8
負傷者 (人)	96	65	62	55	60	50	65	64	54	60

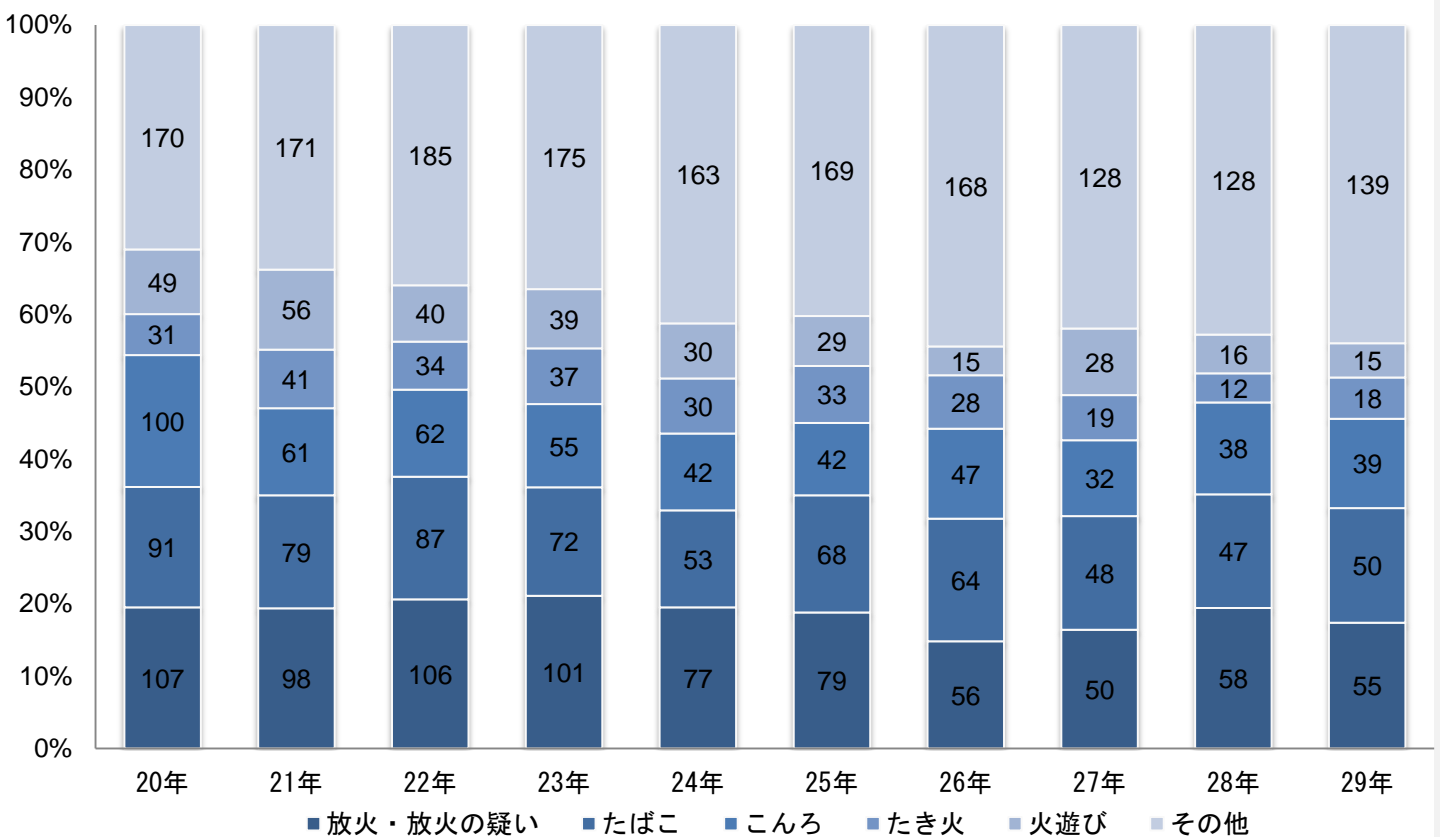
3 出火原因別火災件数 (平成 29 年中)

平成 29 年中の火災を出火原因別にみると、「放火・放火の疑い」が 55 件 (17.4%) で最も多く、次いで「たばこ」が 50 件 (15.8%)、「こんろ」が 39 件 (12.3%) となっている。

区分	平成 29 年中						
	総数	放火・放火の疑い	たばこ	こんろ	火遊び	たき火	その他
件数	316	55	50	39	18	15	139
構成比	100%	17.4%	15.8%	12.3%	5.7%	4.7%	44.0%

4 過去 10 年間の火災原因の構成比

単位：件



救助 - Rescue -

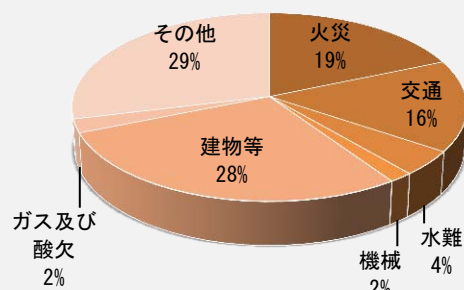


1 救助件数内訳（平成 29 年中）

平成 29 年中の広島市消防局管内の救助件数は、913 件で、前年の 858 件と比較して 55 件の増加となった。

件数の内訳は、建物内への閉じ込めなどが該当する「建物等による事故」が 262 件で全体の 29%を占め、続いて「交通事故」が 168 件（18%）、「火災」が 159 件（17%）となっている。

【救助件数の内訳】



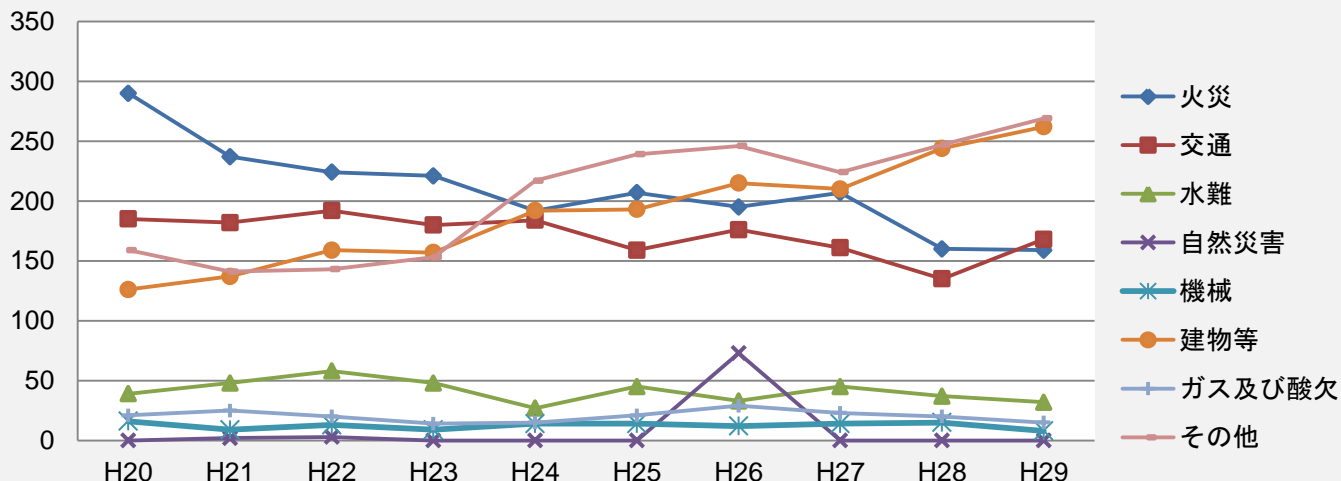
2 過去 10 年間の救助件数の推移

過去 10 年間の推移をみると、出動件数は平成 20 年の 836 件に対し約 9%の増加となっている。

年別	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	
救助件数	836 (100)	781 (93)	812 (97)	782 (94)	841 (100)	878 (105)	979 (117)	884 (105)	858 (102)	913 (109)	
内 訳	火災	290 (100)	237 (82)	224 (77)	221 (76)	192 (66)	207 (71)	195 (67)	207 (71)	160 (55)	159 (55)
	交通事故	185 (100)	182 (98)	192 (103)	180 (97)	184 (9)	159 (103)	176 (114)	161 (105)	135 (73)	168 (91)
	水難事故	39 (100)	48 (123)	58 (149)	48 (123)	27 (69)	45 (115)	33 (85)	45 (115)	37 (95)	32 (82)
	風水害等 自然災害	0 (-)	2 (-)	3 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	73 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
	機械に よる事故	16 (100)	9 (56)	13 (81)	9 (56)	14 (88)	14 (88)	12 (75)	14 (88)	15 (94)	8 (50)
	建物等に よる事故	126 (100)	137 (109)	159 (126)	157 (125)	192 (152)	193 (153)	215 (171)	210 (167)	244 (194)	262 (208)
	ガス及び 酸欠事故	21 (100)	25 (119)	20 (95)	14 (67)	15 (71)	21 (100)	29 (138)	23 (110)	20 (95)	15 (71)
	その他の 事 故	159 (100)	141 (89)	143 (90)	153 (96)	217 (136)	239 (150)	246 (155)	224 (141)	247 (155)	269 (169)

備考

○ 内は、平成 20 年を指数 100 として表した数値である。



救急 - Ambulance -



1 平成 29 年中の救急出動件数の推移

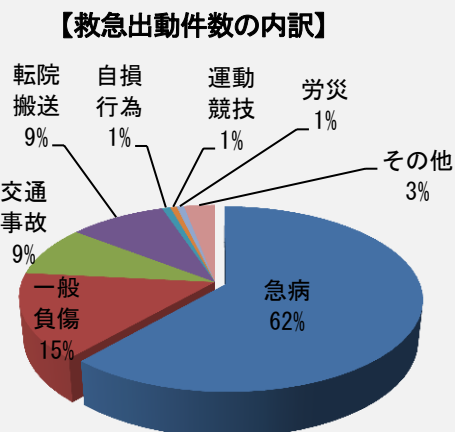
平成 29 年中の出動件数は、59,752 件で、前年と比較すると 1,774 件 (3.1%) 増加し、搬送人員は 50,991 人で 1,876 人 (3.8%) の増加であった。これを一日に平均すると約 164 件出動し、約 140 人搬送したこととなり、約 9 分に 1 件の割合で救急出動がされたこととなる。

事故種別でみると、「急病」が 36,760 件で最も多く、全体の約 6 割を占めており、前年と比較して 1,027 件の増加となった。次いで多いのは「一般負傷」で 9,027 件、「交通事故」は 5,301 件となっている。前年と比較して「一般負傷」は 569 件の増加、「交通事故」は 119 件の減少となっている。

平成 12 年 4 月 1 日からはヘリコプターによる救急搬送業務を開始しており、平成 29 年中は 79 件救急出動し、42 人の搬送を行っている。



区分	年別	H29 年	H28 年	増減	増減率
出動件数		59,752	57,978	1,774	3.1%
急病		36,760	35,733	1,027	2.9%
一般負傷		9,027	8,458	569	6.7%
転院搬送		5,600	5,160	440	8.5%
交通事故		5,301	5,420	△119	△2.2%
自損行為		484	507	△23	△4.8%
運動競技		373	346	27	7.8%
労災		418	396	22	5.6%
その他		1,789	1,958	△169	△9.4%
搬送人員 (人)		50,991	49,115	1,876	3.8%



※ 割合は小数点を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合がある。

2 過去の 10 年間の救急件数の推移

区分	年別	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
出動件数		48,048 (100)	48,189 (100)	51,565 (107)	52,616 (110)	53,500 (111)	55,448 (115)	56,045 (117)	57,746 (120)	57,978 (121)	59,752 (124)
急病		27,250 (100)	27,572 (101)	29,894 (110)	30,928 (114)	31,545 (116)	32,856 (121)	33,365 (122)	35,215 (129)	35,733 (131)	36,760 (135)
一般負傷		6,720 (100)	6,409 (95)	7,119 (106)	7,346 (109)	7,655 (114)	7,972 (119)	8,257 (123)	8,257 (123)	8,458 (126)	9,027 (134)
交通事故		6,154 (100)	6,209 (101)	6,263 (102)	6,200 (101)	6,041 (98)	6,202 (101)	5,842 (95)	5,653 (92)	5,420 (88)	5,301 (86)

備考

① 内は平成 20 年を指数 100 として表した数値である。